

授 業 科 目 の 概 要

(保健看護学部 保健看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
総 学 合 的 教 育 科 の 目 基 盤	生命のしくみ	生物は、動物と植物に大別されるが、その生命活動の仕組みの違いを知ることが生体機構を理解する基本となる。本科目では、まず生体の最小単位である細胞について学び、次いで組織、器官の構造とはたらきを解説する。医療人として、ヒトの身体の仕組みを知るための基礎について理解を深め、多様な生体現象を科学的に考察する能力を涵養することを目標とする。近年、遺伝子解析が急速に進み、生命の仕組みについては、かなり解き明かされてきたといっても過言ではない。教養課程で生命の仕組みを分子レベルで学ぶことにより、生体の仕組みを分子生物学及び生化学的な側面から理解を深める。併せて今日、話題となっている生命操作のもつ意義とそれから派生する生命倫理に関しても深く考察できる能力を涵養することを目標とする。	
	物質と自然のしくみ	人類は、古来より自然の現象に興味を持ち、探求することによって自然現象を支配していると考えられる原理を導いてきた。さらに、その原理から導かれる現象を予想し、確かめることによって自然科学を育ててきた。そのなかでも物理学は最も基本となる分野であり、21世紀の今日、広い範囲の物理的な現象に対して精度の高い予測が可能になった。 本科目では、医療や人体に関連した物理現象と日常の身近な物理現象を取り上げ、その概要を教授する。現象をていねいに観察してそれを物理的に思考できるような授業とする。	
	生命の化学	人間は、様々な化学物質の集合体であり、非常に巧妙な仕組みで生命維持活動を行っている。それら生体物質がどのような性質を持っているのかを勉強することは、医療を学ぶ者にとって重要なことである。そこで、生命現象に関わっている物質について原子レベルから分子レベルまで理解を深める必要がある。本科目では、どのような法則で生体が形づくられ、生きていくためにはどのような化学変化が行われ、生体機能と関係しているのかを習得することを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目と生活	情報科学	現代の社会には、おびただしい数の情報が流れているが、その中で生活し働くものとして、能率よく必要かつ有用な情報を入手し、それらを整理し、分析する能力を身につけることは大切なことである。また、仕事の上で文章やレポートを作成したり、提示しなければならない機会も増え、情報処理能力を養うことがますます重要になっている。今日、インターネットは、家庭にも広く普及しているが、本科目では、コンピュータの原理からはじめて、文章・画像情報処理、データベース、ネットワークの技術を身につけることを目指す。	
	生命倫理	<p>洋の東西を問わず、古くから倫理的問題に関心が寄せられ、医療の領域においてもヒポクラテスの誓文や中国古典の『傷寒論』などに厳しく取り上げられている。しかし、科学の技術と知識が進歩するにつれて、生命倫理に次々と新しい問題が提起され、科学的な問題は解決されても、人間的・社会的価値を基準に倫理的判断と両立しないことが多い。</p> <p>科学技術の発達によりもたらされた成果は、直接人間の幸福につながるものではなく、厳しい選別が必要である。それだけに、生命倫理は、医療従事者だけではなく、患者家族を含めて広く一般の人々にも理解されなければならない。本科目では、生命倫理の考え方と、具体的な医療問題をとりあげる。</p>	
	心と身体の健康	「こころ」と「からだ」をつなぐキーコンセプトを精神医学的観点から解き明かし、一般臨床場面で出会うことの多いケースを中心に、精神・身体疾患の患者が呈する精神症状や心の問題への対処法などを、実際例をあげて解説する。基本的には、コンサルテーション・リエゾン精神医学の歴史と概念や科学的基盤としての精神免疫学的アプローチ（精神・免疫・内分泌相関）について学び、こころと体の関係の仕組みを理解し、患者の看護、さらには健康増進や病気の予防への応用を考える。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合 人間 教育 と 育 生 科 目 活	法の基礎知識	<p>法律学の基礎的知識について解説することが、本科目の主たる目的である。我々の日常生活の中にかに多くの法律関係が存在しているかということ、伝統的な法学の体系に即した講義を行いながら、理解してもらうよう努める。オリエンテーションとして、六法の使い方を解説した上で、法とは何かという総論的な問題から、裁判制度や民法等の基礎的な法の仕組みまでを解説する。医事的、時事的問題もとりあげて、現実の生活を法的に説明できる素養を培う一助としたい。</p>	
	東洋思想	<p>中国古代の思想のうち、陰陽五行説・天の概念など、後代の思想・文化を考える上で欠かせない要素について、それらを出るだけ具体的に把握することで、陰陽説、五行説などの中国の思想・文化に対する幅広い理解の基礎を身につけることを目的とする。講義は、その目的に合わせて『史記』などから採り上げた本紀・列伝に解説を加えながら読み進めるが、その際には中国史や漢語に関する教養の習得にも十分留意するものとする。</p> <p>また、『黄帝内経』の概要などの東洋医学の源流にもふれる。</p>	
	社会文化人類学	<p>制度や集団の中で生きていく人間の諸問題を、社会現象の観点から解き明かそうとする社会学の対象領域において、現代の日本がとくに深刻に考えなければならないのが、家族に関する問題である。そこで、戦後の社会変動の中で日本の家族の機能がどのように変化してきたかを詳しく講義する。高度成長期の産業化・都市化に伴って、「サラリーマンの父と専業主婦の母」を中心とする核家族が誕生したが、介護問題、ひきこもり、児童虐待、パラサイトシングル、ドメスティック・バイオレンスなど、現在の家族問題の多くが、この核家族の成立と崩壊の過程に関係している。このような現代の家族やジェンダー（性別役割分業）についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>さらに本科目では、健康と病気の発生に影響を与える生物生態学のおよび社会文化的要因について、比較文化的に探求する。ここでは、異なった健康・病気観、治療方法をもつ複数の医療が並存する「医療的多元性」に着目し、伝統医療あるいは民族医療の今日的位置づけを試みる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目		<p>具体的には主として日本もしくは台湾の事例を取り上げ、医療における病者 - 治療者関係、病気体験と病気行動の文化的構成に関して考察することにより、現代医療の体系も文化的・社会的背景と関連性を有することを理解させる。</p>	
	心理学	<p>「人間とはどのような生命体であり、いかに感じ、行動し、生きているのか」という多岐にわたる心理学のテーマの中から、この講義では特に個性を主題としてとりあげる。心理学は、人間の心や行動を客観的に対象化して研究する学問である一方、人間の成長や発達に役立たせるための方法を啓発しようとする学問でもある。心理学のそうした両面から、個性という身近な問題を心理学的に多面的に検討することにより、人間理解を深めることを目標とする。なお、人間理解の知識が、職場や家庭において活かされるべく、なるべく具体的な事例にも触れさせる。</p>	
	東洋医学と西洋医学	<p>東洋医学は主として古代中国で発達し、日本に渡って独自の発展を遂げ、現在のわが国の漢方医学、鍼灸医学として脈々と受け継がれている。一方、西洋医学は古代ギリシャのヒポクラテスに始まったが、大きく変わったのはウィルヒョウの細胞病理学説（1858）であろう。東洋医学は人体を小宇宙である（天人相応）と考えたが、西洋医学は全く別の見方をした。すなわち、細胞の集まりであると考えたのである。講義では、こうした2つの医学の基本的な考え方について理解を深めることを目的とし、さらに、東洋医学と西洋医学が統合された医療はどうあるべきかについて、現在までの国内外の例を紹介しながら考える。</p>	
	生薬の科学	<p>生薬、特に植物性生薬は、大地からの贈り物である。生薬を学ぶことは、人間の健康保持に必要な自然の恵みと生活文化の関わり合いを知るためには必要である。健康意識の高まりと共に「自然」なもの（生薬）による健康法が注目されてきている。そこで、生活の知恵として使われてきた民間薬、伝承薬も含め、よく知られている生薬について正しい知識（有効成分、有効部位）と、その知識に基づいた利用法を紹介する。また、身近（家庭）にある生薬の意外な利用法についても概説する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教と育生科目	スポーツと健康	<p>現代社会の発達は、快適な生活を私たちに与えてくれている反面、オーバーストレスや運動不足を引き起こし、生活習慣病の誘因となる。スポーツと健康では、初めにこれらの成り立ちを学ぶ。次に、臨床で関わりの深い、腰痛、高血圧、肥満などの成り立ちとスポーツとの関わりについての知識を身につける。最後にスポーツはその実践方法によっては身体に悪影響をおよぼすことから、加齢とトレーナビリティ、スポーツ障害などを学び、さらに基礎的な応急処置の理論を習得する。</p>	
	生涯スポーツ	<p>慢性的な運動不足は身体にゆがみを引き起こし、様々な疾病の原因となることが知られている。生涯スポーツでは、特に肩こり、腰痛、肥満、高血圧、生活習慣病などの予防・改善に有効なスポーツ・運動であるストレッチング、腰痛体操、ジョギング、ウォーキングを実践する。また、患者や高齢者を含めた地域の人々とのコミュニケーションをとる手段の一つともなるニュースポーツ（たとえばゲートボール、グラウンドゴルフ、ペタンク）の指導法を含めた知識と技能を学ぶ。</p>	
	生涯スポーツ	<p>健康や体力の維持増進は、人生をより良く過ごす上で重要な問題である。しかし、今日の日常生活では、身体活動の機会は減少し、体力の低下を招いている。生涯スポーツでは、生涯スポーツにひきつづき、日常において手軽にでき、生涯を通じて行えるスポーツの実践を通して、良好なコンディショニングを維持する知識と技能を学ぶとともにスポーツの楽しみ方を身につける。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	英語表現法	<p>今日、国際化が進む中、「英語を話す能力」を獲得する必要性は、高まる一方である。しかし、英語を話すことは、伝えたい内容をまず日本語で考え、それを対応する英語に置き換えることではない。日本語的発想ではなく、英語的な発想によって表現しなくては、相手に英語で正確に気持ちを伝えることはできない。</p> <p>そこで、本科目においては、英語に対する感覚を磨き、英語らしい英語を話す能力を高めていくことを目的とする。</p> <p>まず各種の視聴覚教材を活用して、自然な英語表現の耳からのインプットを図り、英語的な発想による様々な表現方法を学ぶ。</p>	
	英語表現法	<p>近年の急速なグローバル化の発展に伴い、医療分野における英語力は必要性を増してきている。本科目では、病院などの医療系の職場で働く医療従事者を想定して作成されたテキストを使用する。具体的な事例研究を題材としており、臨床の場において役立つ内容であり、英語力の向上を目指す。</p>	
	国語表現法	<p>看護では、対象者とのコミュニケーションを図る上で、日本語的確な表現力を身につけるだけでなく、職務上の記録文書も多いため、高い文章能力が必要とされる。本科目では、よりよい言語表現を実現するため、その表現媒体である日本語についての知識を深め、興味を喚起することを第一の目的としている。普段なにげなく使っている日本語について意識的に考えさせることは、学生の表現能力や文章能力の向上につながっていく。さらに、レポート作成などにも役立つような基礎知識を教授する。</p>	
	中国語	<p>日本と中国の交流の歴史は古く、中国語の習得は、中国を理解する上で役立つばかりでなく、日本の文化や言語についての認識を深めるためにも有効である。そのために、まず四声（イントネーション）や拼音（ピンイン）といった発音や表記法の初歩を習得した後、日常会話や簡単な作文ができるよう、中国語の基礎を指導する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	コミュニケーション学	<p>現代ほど、科学技術の進歩により意思の伝達手段が複雑になり、コミュニケーションのとりかたが注目されている時代はない。しかし、どのような伝達手段を用いようと、看護師と患者とその家族とのコミュニケーションにおいては、それぞれの心の内を十分に理解することが大切である。また、医療の現場においては、医療従事者間の意志の疎通が十分にとれない場合、生命に直結する医療事故にもつながりかねない。本科目では、これらの点において、患者と家族がおかれた特殊な状態を心理学的な側面から解説し、患者や家族とどのようにコミュニケーションをとれば良いのか、また、チーム医療の現場におけるコミュニケーションでは、何が重要であるのか、実例を含めて講義する。</p>	
	手話	<p>看護においてはいうまでもなく患者やその家族とのコミュニケーションは重要である。この重要性は健常者においても障害者においても変わらない。ところが、患者や家族が聴覚障害者である場合、筆談が主要な手段となっており、視覚障害者に比較してコミュニケーションがとりにくいのが現状である。本科目では、このような状況の解決の一助にすべく、手話の基本および医療場面で必要となる会話を実践的に学修する。聴覚障害を持たれた方をより深く理解するため、聴覚障害を持たれた方を講師として、手話通訳を交えて授業を実施する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 と 健 康 障 害 科 目	人体の構造・機能	<p>人体の構造・機能 は、身体を構成している形態と機能について学ぶ学問である。人体は、多数の細胞から構成されており、同じ種類の細胞が集合して組織を形成する。その組織が一定の配列をもとに器官を形成し、いくつかの器官が集まって器官系を構成する。この講義では、細胞と組織、骨格系と筋系、神経系、感覚器系についての構造と機能を学ぶ。</p>	
	人体の構造・機能	<p>人体の構造・機能 は、身体を構成している形態と機能について学ぶ学問である。人体は、多数の細胞から構成されており、同じ種類の細胞が集合して組織を形成する。その組織が一定の配列をもとに器官を形成し、いくつかの器官が集まって器官系を構成する。この講義では、血液と循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系、生殖器系についての構造と機能を学ぶ。</p>	
	免疫学	<p>人間の体には、細菌やウイルスなどの外敵から身を守る防御機構があるが、この防御機構のうち、最も重要で大きな役割を果たしているのが免疫反応である。しかも、この免疫反応は、外敵だけでなく、体内に出現する変異した細胞、すなわち癌細胞を排除するという働きも担っている。さらに、このような免疫反応も、ときによってはアレルギーや自己免疫といった疾患を引き起こすという側面も持っている。本科目では、難解で複雑といわれている免疫機構をできる限り易しく解説し、免疫反応の基本が理解できるようにする。</p>	
	神経科学	<p>近年、脳神経系を中心とした神経科学は、その情報処理機構を解明することや、精神活動の機構を解明するとともに、脳神経系の病気に対する予防や治療法の開発など様々な分野において発展しつつある。この講義では、人体の構造・機能で学んだことをふまえて、神経系の構造と機能、神経系の発生と分化、神経の再生、シナプス可塑性の仕組み、高次脳機能、神経・精神疾患の機構についてを中心に、詳しく学習する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 と 健 康 障 害	日常生活活動学 (ADL)	日常生活活動の定義・分類・評価について講義する。本科目では、解剖学かつ運動学を根拠とした基本動作の理解と基本動作と各固有動作が連続することによって成立する身の回り動作の動作構造の把握を基本とする。それぞれの患者様が障害されている日常生活動作に関連する基本動作を把握し、その動作特徴から問題点を把握する。さらに、実際の症例のケースを基にした各動作の実例を提示して観察と評価、最良の動作方法について実技も踏まえてこれらの具体的な方法論を講義する。	
	病因・病態学	生体において、疾病がどのような原因により発生し、また、どのように病的変化が形成されていくかということを知ることが、その疾病の本質を理解する上できわめて重要なことである。本科目では、病因、発生機序、経過・予後など、疾病に関する基本的理解をはかることを目的として、疾病病変に共通する代謝異常、退行性病変、進行性病変、循環障害、腫瘍などを取り上げていく。	
	微生物学	感染症を理解する上で必要な微生物に関する基礎的知識を身につける。特に最近注目されている病原微生物について、分類・形態・微細構造・代謝と増殖などの基礎知識を習得する。さらに薬剤耐性菌の出現と耐性メカニズムなどについて理解を深める。	
	慢性期病態学	小児、成人、高齢者において、長期間の治療と管理が必要とされる慢性疾患の基礎的な病態について、臓器別にその特徴を性、年齢、成長発達の状況、病因、症状、経過と関連づけて理解する。また、身体が回復する機序について学び、ライフスタイルの修正が疾病を改善すること、それを踏まえた生活指導と看護を関連づけて学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 と 健 康 障 害 科 目	急性期病態学	<p>身体の構造・機能、基礎病態学、看護に必要な薬理学の知識をもとに、各種急性疾患の病因、症状、診断、治療について看護に必要な知識を学習する。急激に変化する緊急疾患、周手術期の患者の症状を理解し、緊急疾患、周術期の治療、看護への知識を習得する。実際の症例提示を通して、より効果的に学ぶ。</p>	
	臨床薬理学	<p>病気の治療を行う上で、薬物療法は大きな柱の一つであり、薬と病気の関係を知ることは、看護に携わる者にとっても重要である。また、薬物に関する医療事故が多いことを踏まえて、薬物の特性や人体に与える影響について理解を深める。</p> <p>総論では薬物に共通する生体と薬物の相互作用について以下の内容を教授し、各論では臨床でよく使用される主な薬についてその作用とその機序、臨床応用及び副作用について紹介する。</p>	
	食と健康	<p>人は、生命を維持するため、食物を介して栄養素を摂取している。栄養素をどれだけ摂取したらよいか、どんな食品にどんな栄養素が含まれているか、さらに食品成分が組織や細胞の中でどのようにその機能を発揮するのかを知ることが大切である。このようなことは、臨床医学を学ぶ上でも必要である。また、最近では、日常摂取する食品に、生活習慣病の予防、健康維持・回復、長寿などの新たな期待が寄せられていることから、栄養素の消化・吸収・代謝などの基礎事項と共に食品による生理機能の制御など有用な食品の第三次機能に関して理解を深める。さらに食事療法が必要な代表的な疾患について、その食事療法の基本を教授する。</p>	
	臨床心理学概論	<p>心理臨床活動における基礎的な概念を学ぶ。まず、心の構造について、心のダイナミズムや病について、また、アセスメントや治療技法についての理解を深めたい。また、人の一生の各発達期においての心の問題について学習したい。応用としては、具体的な場面における、コミュニケーションや援助のあり方について、各々が考えてゆく作業を試みたい。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	救急医療・クリティカルケア論 人体のしくみと健康障害	<p>救急医療は、症状の緊急性であるプライマリーケアと症状の重篤性であるクリティカルケアからなる。まず救命救急医療に必要な理論および技術を理解し、治療環境の管理・調整等の専門職種間のコーディネーターに必要な基本知識を学ぶ。また、クリティカル状況下における人間の生理的、心理的、社会的状態を総合的にとらえ、危機理論、援助関係論、緩和ケア論、家族看護理論、看護倫理論、コンサルテーション論などの諸理論を踏まえて、複雑な問題を解決できる高度な実践能力、管理能力、さらに事象を研究的に思考できる能力を育成する。</p>	
	人間発達学 人間の健康	<p>人は誕生してから死に至るまで、常に絶え間なく発達しつづける存在であるという考え方をベースにしている。そして看護の視点で人間をとらえ、それぞれの時期での発達上の課題や健康問題について考える講義である。発達とは、身体面、心理面、社会面が生涯を通して変容していく過程であることを知り、発達段階と発達課題を理解する。さまざまな機能・能力ごとの経年的変化を理解する。いわゆる正常発達を理解した上で、発達過程で支援・援助を必要とする対象者（児）を知り、医療専門職者としての基盤を築く。</p>	
生活と保健	社会福祉論	<p>人々の生命や生活の質を保障する社会的仕組みとして社会福祉・社会保障制度がある。人々の健康にかかわる保健医療職者は社会福祉の基本的理念および、社会福祉・社会保障にかかわる法や諸制度を理解し、その実践に役立てなければならない。本講義は、人々の健康的で幸福な生活を実現化するための社会福祉・社会保障にかかわる基本的知識、社会福祉実践の展開に必要な援助技術と態度を学ぶ。さらに事例などを通して保健医療福祉の実践と専門職者間の相互の連携のあり方についても学ぶ。これらの学習を通して、1人の生活者ならびに看護の専門職者として、社会福祉・社会保障制度の現状の課題・問題をよりよい方向に発展させていくための姿勢を培う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人 の 健 康 教 育 と 目 保 健	看護にいかす東洋医学	<p>看護の目的は、患者の人格を尊重し、一個の人間として全人的に捉え、その自然治癒能力を最大限に引き出せることにある。また、東洋医学の目的も、病そのものの治療ではなく、自然治癒力を高めることにある。自然治癒力を高めるといふ点では、両者の目的は一致している。このため、東洋医学の診察では病因を特定しようとせず、患者の状態を総合的に詳しく分析することに主力をおく。つまり、四診（望、聞、問、切）による患者のフィジカルアセスメントの結果を陰陽五行説で分類する。治療法では、この分類に基づいて、汗、吐、下、和（発汗、嘔吐、下痢、利尿）の治法のいずれかを選択し、自律神経機能の調節を介して自然治癒力を高めることに目的をおく。</p> <p>本科目では、このような東洋医学の四診について解説し、自然治癒力を高めるためにフィジカルアセスメントがいかに重要であるかを解説し、さらに、発汗、排便、排尿などの調節の重要性についても解説する。</p>	
	看護にいかすツボ刺激	<p>ツボは東洋医学では「病気の反応点であり、治療点である」と定義されている。西洋医学においても、内臓に疾患があると、求心性線維を介して、一定の体表部に、疾患に特異的な知覚過敏点や反応帯が出現することが古くから知られている。現代のように医学技術が発達していなかった、明治、大正時代の内科医は、その反応の程度が疾患の状態を反映するとして、この反応点（例、胃潰瘍に対する小野寺の臀部圧疹点）や反応帯（ヘッド帯）を検出することで、診断の一助としてきた。東洋医学では、このツボを 2000 年以上前から診断に使用するとともに、あんま、マッサージ、指圧、鍼灸による治療の対象として使用してきた。</p> <p>本講義では、これらのツボのうち「肩凝り」や「腰痛」に治療効果が高いとされているものに絞り、その部位と効果について解説し、看護技術の一つとして応用可能な、手指による刺激方法についても概説する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 活 科 と 目 人 の 健 康 生 活 科 目	保健・医療・福祉制度論	<p>保健・医療・福祉は相互に連携し、人々の健康生活を支えている。ここでは保健・医療・福祉政策や制度及び医療・保健・福祉の相互の連携や協働について理解を深めることを目的とする。国民の健康と生活を守る社会システムとして、保健・医療・福祉の法体系と理念および諸施策・制度についての基礎知識を学習し、サブシステムとして機能する看護サービスのあり方を追究する基礎的能力を養う。</p> <p>保健・医療・福祉の法体系と理念、諸施策・制度を理解することを到達目標とする。</p>	
	医療政策論	<p>健康上の問題は、個人レベルの要因に加えて、社会構造要因と関連して生じる。効果的な保健活動をするには、社会的環境がどのように個人・集団の健康問題に影響を与えているのかという問いを通して、健康増進・疾病予防策を考え、生活に密着した行政サービスや制度に発展させることが重要である。</p> <p>そこで、本科目は、保健活動を具現化するために必要な知識・技術として、社会の有り様を客観的に把握する力を養い、どのように制度化すればよいのかを学習する科目である。将来、保健師として専門性を研鑽し、地域の中で住民の視点で活動するために、行政サービスや制度化のプロセスと、その思考過程について事例を用いながら教授する。</p>	
	環境と健康	<p>過去の環境問題の推移・経験を学び、現在の諸問題に向き合うことで、未来の深刻な結果を回避するための方法を思索する。また、客観的に資料を分析する能力を養い、状況を科学的に判断する姿勢を身につける。本講義では身近な問題から地球規模の問題まで多様な環境問題の実態を正しく認識するとともに、これらの諸問題について原因を考察し、今後の環境対策を思索する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 教 育 科 目	人の健康生活と保健	公衆衛生学	<p>集団に共通する環境の分析と、それが地域社会で生活している人々の健康におよぼす影響について理解する。集団の健康指標である人口静態統計・人口動態統計・生命表、疾病統計などを理解する。さらに、集団のみならず個人の疾病予防と健康の保持増進を図る方法を理解し、具体的にそれを地域や社会に応用することを学ぶ。</p>	
	疫学	<p>本講義の目的は、人間集団を対象として、健康及び疾病にかかわる要因を特定し、因果関係を明らかにすることを目指す学問としての疫学を知ってもらうことである。そのため、疫学の定義と歴史を説明した後、鍵となる概念を基礎から説明し、研究方法論別に、実際の研究例も交えながら教授する。</p> <p>疫学の原理と方法を学ぶことによって、疾病の予防、健康増進を目的とした保健活動を科学的に行えるようにする知識、技術を習得する。</p>		
	保健統計学	<p>地域保健活動を実践するためには、対象である集団の特性を把握する必要がある。そこで、地域保健活動で用いられる様々な保健統計について、その作成方法、利用方法、近年の動向について教授するとともに、統計学的解析の基礎、文献調査法などについての基礎的能力を養う。</p>		
基礎看護学	看護学概論	<p>看護学の学習を始めるにあたり、看護学とは何かを学ぶ科目である。学生は、今までの経験から看護についてのイメージや知識を持っている。それを引き出しながら、看護の対象となる人間の理解、健康の概念、看護の定義について教授する。看護の役割については、歴史的変遷をみながら、現在の看護の役割について理解できるよう進める。また、看護の職種と専門職としての活動についても教授する。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎 看護 科目	ライフサイクル看護論	<p>人間を統合的存在として捉え、各発達段階において、どのような健康状態の変化を起こしやすいのか、小児期、青年期、老年期というライフサイクルにある人の理解に焦点をあて、ライフサイクルの絡み合いとしての同世代・異世代間の相互的な人間形成や、その背景をなす社会や時代の特性にも留意しながら、発達上の特徴、生活習慣、生活環境、および政策などの背景について理解し、発達という視点から看護の対象を理解し、看護のあり方を考える。</p> <p>また、人の生涯にわたる過程で、最良の健康状態をつくり、維持・増進するための健康管理のあり方と看護援助について理解し、健康を保持・増進していくために行われている看護活動について理解を深める。</p> <p>津島和美：小児期の発達と看護（4回） 田中静枝：母性の発達と看護（3回） 石野レイ子：青年期及び成人期の発達と看護（4回） 岩井恵子：老年期の発達と看護（4回）</p>	オムニバス方式 (全15回)
	看護活動と理論	<p>看護を実践するための土台として、看護学の理論を学習する。看護学の理論は、応用範囲が広い理論から、状況や対象を限定した実践的な理論まで幅が広い。この科目では、看護学における理論とは何かを教授し、看護活動を展開するにあたり必要な看護の中範囲理論を中心に学ぶ。学生が理論は難解であると思わないように、事例やグループ学習をしながらすすめる。</p>	
	看護方法論	<p>看護実践に必要な基礎的な共通技術を学修する科目である。看護技術は、人を対象にした専門技術であるので、まず、看護技術とは何かという概念を学ぶ。そして、あらゆる看護場面に必要で共通する技術であるコミュニケーション技術、観察技術、安全を守る技術、安楽を提供する技術、環境を整える技術の理論と技術を学修する。</p> <p>また、グループ活動や、患者・看護者等の役割を演じさせることにより、相互の尊重や協力的態度、看護者としての基本的な姿勢や態度を理解させる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎看護科目	フィジカルアセスメント	看護は、さまざまな健康レベルにある人々の状況を客観的に査定し、看護ケアの根拠を明らかにし、ケアの評価を行う役割がある。そこで、対象者の状況を把握し、判断するための技術として、フィジカルアセスメントの知識と基礎的技術を教授する。観察、問診、視診、聴診、触診などの技術と、これらを頭の方から脚の方まで系統的に行う技術を学ぶ。	
	看護過程論	対象者の健康問題を判断し、問題解決の方法論である看護過程について学習する。内容は、大きく2点で構成される。すなわち、看護過程についての基礎的な知識の修得、事例を用いて看護過程を展開する学習である。事例学習では、臨床で多くみられる看護問題を取り上げ、実際的な学習ができるようにする。	
	基礎看護技術論	人が健康な生活を営むための基本的ニーズを理解したうえで、看護の対象となる人々の基本的ニーズを査定し、それを満たすための看護技術の習得を目指す。中心となる内容は、体位や移動に関する技術、睡眠・休息に関する技術、清潔や衣生活を整える技術、食事・栄養を整える技術、排泄を整える技術である。 この科目の達成目標は、人間の日常生活行動についての知識をもとに、安全・安楽・自立に配慮した援助技術の原理・原則を理解し、それを踏まえた、根拠のある技術を実施することである。また、演習での患者体験や看護者体験を通して、看護実践を支える倫理的な姿勢や態度を養うことである。	
	基礎看護技術論	看護師の役割である診療の補助技術を学習する科目である。対象者が安全で安楽に治療を受けることができ、最大の治療効果が得られるための知識と技術を学ぶ。医療技術の進歩や発展は目覚しく、治療の実際も大きく様変わりしている。この科目は、単に技術の学習ではなく、治療や検査を必要としている対象者の心理やニーズを理解し、原理・原則をふまえた援助を中心にする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	基礎看護学実習	病院の構造や機能を知り、患者の日常生活行動の観察やコミュニケーションを通して、入院による環境の変化が患者の心理や日常生活行動にどのような影響を及ぼすのかを学ぶ。患者の生活を見つめ、患者の生活上のニーズを判断し、患者が快適な療養生活を営むために必要な支援を実践する能力を養う。コミュニケーションにより患者との関係性を築く過程で、自己洞察を深め、看護専門職者としての基本的態度を養う。	
	基礎看護学実習	健康問題を持ち入院を余儀なくされた対象者とのかかわりを通し、看護過程を用いながら看護が解決すべき問題を判断する方法と、対象者の生活過程を整える援助の実際を学び、生命の尊厳と看護者としての倫理観を養う。	
	女性の健康と看護	母性の基礎となる概念について、母性看護を必要とする対象の特徴及び母性看護独自の特徴を知り、対象を取り巻く社会の変遷と現状の問題点について理解を深め、母性看護の課題や役割について学習する。 また、女性の生涯にわたりリプロダクティブヘルスの水準を維持・増進し、母性に関する健康障害の予防と回復に寄与するために、対象者の持てる力が引き出せるよう促し、生活を整えるために必要な看護技術や、実践にあたり重要な関係法規を学習する。	
	母性病態学	リプロダクションを中心とした女性の生理学、病態学について教授する。女性の生殖器の解剖、性周期と内分泌変化、臨床内分泌学から見た病態、妊娠の成立と経過、正常分娩、産褥の生理的变化、妊娠・分娩・産褥の主な病態、子宮・卵巣の疾患、不妊治療などについて教授する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育看護科目	母性看護方法論	<p>母性看護学は次世代の健全育成をめざし、母性の一生を通じた健康の維持・増進・疾病予防を目的とした看護活動を支える実践科学である。女性の一生の中で、最も母性機能を発揮する妊娠・分娩・産褥期にある母子とその家族の特徴を理解し、対象に適切な看護を実践するための方法を学習する。さらに、事例による看護過程を展開しながら、対象者を総合的に理解し、支援するための方法を学習する。</p> <p>小児期にある対象が健康障害、疾病を持ったときに、子どもやその家族に及ぼす影響を小児の発達段階に合わせて学習する。</p>	
	母乳育児の探求	<p>IBCLC は母乳育児を成功させるために必要な、一定水準以上の技術・知識・心構えをもつヘルスケア提供者である。すべての乳児は母乳もしくはヒトの乳で育つ可能性と権利を持っている。しかし、お母さんの約9割が母乳育児を希望しているにもかかわらず、現実には約半数に満たない人しか、母乳育児の恩恵にあずかっていない。母乳育児は自然の摂理であり、健全な次世代育成のための人間関係の基礎をつくるもっとも効果的な方法と考える。母乳育児の可能性や、母乳育児がしやすい、社会を作り出すことを目指し、研究していく。</p>	
	子どもの健康と看護	<p>子どもは、一個人として人格をもつ存在であり、尊重され社会の中で適応していく能力を獲得していく存在であることを土台とし、子どもへの関心を深め、子どもを総合的に理解できる学習をする。子どもの成長発達過程や、健康を左右する環境要因を学ぶことで、一人一人の子どもの成長・発達段階を総合的に判断できる力を養う。また、子どもの日常生活にかかわる学習を通して、子どもの行動や、子どもの反応が表す意味を考えることができるよう思考力を深める。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	小児病態学	<p>小児を取り巻く社会構造・環境の変化に伴い小児疾病構造にも大きな変化が現れている。特に母乳保育を軸とする母子相互作用の意義を理解する必要がある。また、小児期には、各臓器や精神の成長・発達の時期に一度それが障害されると一生を決定づける非可逆的な変化をもたらす critical period があり、小児の疾病を取り扱う時の基本となっている。ここでは、まず、胎生期より新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期における各時期の正常の成長、発達および生理を教授し、次に発熱やけいれんなど小児によく見られる症状の介助や処置の方法、小児に比較的良好に見られる疾病の病態生理、臨床症状、治療について教授する。また、母子相互作用、予防小児科（事故、成人病、心身症） 予防接種、乳児検診、学校保健などの社会小児科学についても述べる。</p>	
	小児看護方法論	<p>小児期にある対象が健康障害、疾病を持ったときに、子どもやその家族に及ぼす影響を小児の発達段階に合わせて学習する。</p> <p>健康回復過程における基本的技術を習得するとともに、治療や回復過程に伴う子どもの反応や対処行動を理解し、各発達段階に応じた対処能力を助ける方法を考える力を養う。また、子どもを中心とした家族の役割について学び、家族を支援・援助する方法について学ぶ。</p>	
	子どもの自己表現	<p>子どもは常に発達を続けている存在であり、環境との相互作用を受け、特に、人とのかかわりは、子どもの発達多大な影響を与えている。子どもの発達を支援するためには、子どもの思い、感情、考えなどを、人的要因である大人が適切に受け止め、対処していくことが大切である。そこで、この科目では、子どものメッセージを、自由に表現する絵などを通して知る手法について検討し、子どもの理解を深めることを目的とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	成育看護学	母性看護学実習	
	看護学	小児看護学実習	
	臨床実践看護学	慢性期看護論	
		急性期看護論	

【女性の健康と看護】・【母性看護方法論】での学びを、その実際の体験を通して、理解を深めることが目標である。周産期にある対象の母子とその家族を中心に、健康上の課題を総合的に把握し、個別性の理解を行い、問題解決に向けた看護を計画・実践・評価する基礎能力を養うことができるよう学習する。生命誕生の神秘や偉大さに多くの感動を得ることができると共に、次世代の健全育成についての課題についても考える機会とする。

健康な乳幼児に接し、乳幼児の心身の発達段階を把握するとともに、基本的な生活習慣とその援助を知り、遊びを通して発達過程にある乳幼児と関わることができる。また、子ども同士や保育者、家族との関わりを知るとともに乳幼児の成長・発達と環境の関係について理解する。
入院を余儀なくされた子どもの心理を理解し、健康障害の程度、発達段階に適した日常生活の援助方法を習得する。また、健康障害をもつ子どもの家族の心情を理解し、必要な援助を考える。

成人期にある人々の特性を踏まえて、健康障害が慢性に経過し、健康回復、健康維持していくために生活をコントロールしていく必要がある対象と家族に対して、心身の状態や生活について理解を深め、健康レベルに応じて変化するケアについて学び、成人期にある人々のケアを展開するために必要な看護理論や、概念モデルについて理解を深める。

急激に変化する疾患を抱える成人を対象に緊急時に対応した看護について学び、必要な援助技術を習得する。特に急性・慢性疾患の増悪期にある患者や手術治療を受ける患者の身体、精神・社会的特徴を理解し、それに応じた看護について学ぶ。また、手術治療を受ける患者の看護については、各機能障害をもつ手術患者に焦点を当て、麻酔や手術侵襲に対して順調な回復過程を辿るための周術期看護を学ぶ。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 実 践 育 看 護 目 学	終末期看護論	<p>終末期にある成人期の人々の QOL の維持・改善、倫理問題などについて、家族を含めた看護援助の知識・技術について学ぶ。特に、終末期にある患者の特徴・症状マネジメント、疼痛コントロール、緩和ケア、意志決定などについて学び、残された人生への看護について考えを深める。</p>	
	リハビリテーション看護論	<p>健康障害をもつ成人期にある人々の生活の自立や社会復帰に向けて、保健・医療・福祉などの総合的見地から学ぶ。成人期のライフステージの特性を踏まえ、社会資源を活用し、生活能力を最大限に活かすためのリハビリテーション看護の知識・技術を習得する。特にリハビリテーションを必要とする患者の障害受容と生活の再獲得、社会復帰に向けての看護を急性期、回復期、維持期の回復過程に沿って学ぶ。</p>	
	慢性期看護学実習	<p>慢性・長期的な疾病や障害をもつ対象とその家族が、セルフケア能力を高め、生活の変化と療養のバランスを保ちながら生活できるように看護アプローチを考え、ケアを実践する能力を養う。また、実習を通して、自らの看護実践に対する考えを明らかにし、看護観の形成を促す。</p>	
	急性期看護学実習	<p>急性期看護実習は、手術を受ける患者や家族に焦点を当てて実習を行う。この実習のねらいは、手術を受ける患者や家族が急激な変化を生じる状況に対応し、心身両面の回復や社会生活への適応に向けて主体的に取り組むための周術期看護を実践する基礎的能力を養う。特に手術や麻酔による侵襲やそれに対する生体反応の特徴を理解し、それに対応した看護を習得する。また周術期にある患者や家族の心理・社会的特徴を理解し、それに対応した看護を習得する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 実 践 教 育 科 目	心の健康と看護	<p>精神医療と看護の歴史の変遷を概観し、心の健康を理解するために心の構造と機能、成長と発達、成長期における課題と危機、心の健康に及ぼす諸因子について、そして、既存の諸モデルを通して心を病む人々の諸現象について理解する。また、心の看護とその特性、心を病む人々への治療的関係の展開、治療的コミュニケーション技法の概要、精神保健医療の歴史と現状、精神保健医療活動など精神看護学の基礎について学習する。</p>	
	精神病態学	<p>精神看護学に必要な病態の知識、理解、援助技術、態度を身に付けることを目標とする。</p> <p>個別の学習目標としては、患者さんの置かれている状況から、困難や葛藤がどこにあるかを見出すことができること。精神障害の予防や危機介入の方法、障害が疑われる人の診察の仕方、診断方法について理解できること。主な精神障害の、分類、疫学、成因、病態、身体的検査法、心理的検査法、症状と経過、治療の概要を理解することができることなどである。</p>	
	精神看護方法論	<p>心の健康と看護、精神病態学や心理学、援助的人間関係などについて学習した知識を生かし、心を病む人々に対して必要な看護を展開するための基礎的及び実践的な知識、技術を習得する。心を病む人々の日常生活や行動、看護師・患者関係の成立・発展過程、精神保健医療チームと看護の役割などについて理解し、治療的な関わり方や働きかけ、治療的コミュニケーションなどに関する具体的な方法と技術についてプロセスレコードの活用や演習、事例を通して学習する。</p>	
	精神看護学実習	<p>心の健康に障害を持つ対象との関わりを通して、対象の生命の尊厳と人間としての基本的な権利と家族への理解を深める。心の健康に障害を持つために、社会的及び日常生活や対人関係に困難を抱えている状況、その要因となる背景について考察し理解する。</p> <p>そして、対象の不安や苦痛、苦悩に共感し、自らをケアの道具として最大限に生かし、治療的なコミュニケーションを活用して対象と関わり、個別性を尊重した看護援助をするための基礎的な能力を養う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 地 域 実 践 科 目	老年期の健康と看護	老年期の看護において基本となる考え方、対象の理解、健康問題、家族や社会システムの現状、看護の理念や役割について学ぶ科目である。老年期にある対象の身体的・精神的・社会的側面を知り、高齢者のライフステージを理解する。人生の終盤期にある高齢者の生命と人格を尊重する態度を養い老年観を身につける。さらに、高齢者の健康維持、QOLの向上に関わる看護の役割と、高齢者およびその家族を支える老人保健の動向・医療・福祉対策を理解する。	
	加齢医学（老年医学）	老年看護において看護が本来の目的を果たすためには、老年学の立場に立った加齢に伴う身体の変化をはじめ、高齢者特有の病態や症状を理解し、高齢者に特徴的な疾患に関する知識を習得し、高齢者に起こりうる身体的変化の異常に関して知識を深める。また、高齢者の治療を伴う場合の注意点や起こりやすい副作用、合併症についても学習する。	
	老年看護方法論	老年看護の目的は、老年期にあるその人の生命・生活の質が、その人をとりまく環境や条件の中で最大に保たれるように援助することである。老年看護の対象は、人生の最終段階にある人で、これまでの生活背景や社会・文化的背景などから身体的、心理・社会的個人差が大きい。部分的変化と全体的変化が密接に絡まって、高齢者の健康に様々な影響を与えていることを理解して進める必要がある。さらに、日々の身体面・社会面での喪失を経験しながら、ほぼすべてを喪失する死を前にしている。そのような高齢者の特徴をふまえて、老化がもたらす生活への影響とその援助技術、高齢者のケアについて学ぶ。高齢者が自立した快適な生活を送れるための援助の方法及び治療を受ける高齢者の看護を習得する。	
	老年看護方法論	老年看護学実習に先がけ、既に学習した知識および技術の統合をめざした具体的な援助技術を習得する。高齢者の健康障害時の諸問題について知り、健康障害を持つ高齢者とその家族に対する看護の方法を理解する。事例を用いて、看過程・診断・日常生活の援助を学習する。さらに、より深くあるいは広く学ぶ必要のある課題、新しい知識・技術、科学的根拠や倫理的観点について、具体的かつ総合的に学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 地 域 実 践 科 目	老年看護学実習	<p>高齢期にある人々の身体的・精神的・社会的側面から高齢者の特徴を理解し、その健康生活について支援する基本的能力を養う。</p> <p>本学附属診療所では、1人の患者を来院から帰宅まで受け持ち、コミュニケーションを図りながら、検査・診察・移動などの介助を行う。老人保健施設では、施設の目的、組織体制、事業内容、利用対象者の特徴、地域ケア体制における位置づけ・役割、関係機関や関係職種との連携、課題等の実際を学ぶ。</p>	
	老年看護学実習	<p>老化による身体的、心理・社会的機能や能力の低下した高齢者の健康上の問題や生活機能障害について学び、個人差の大きい高齢者に対する援助のありかたを理解する。加齢現象や健康障害に伴う諸問題を理解し、高齢者が最大限に自立した生活ができるよう、個人を尊重した日常生活にむけた援助技術を実践する。老年看護学概論・老年看護方法論で学んだ理論や看護技術をもとに、高齢者および家族を含めた健康問題を明確にして看護過程（計画・実施・評価）を実践する。高齢者と家族を取り巻く保健・医療・福祉の連携や社会の動向を知り、看護者の役割や課題を考察する。</p>	
	在宅看護論	<p>在宅看護の概念と必要性及び現状を概観し、在宅で療養生活を送る人びととその対象の特徴を理解し、そこで必要な日常生活上の援助について講義する。また、在宅生活を継続させるために医療処置に関する専門的知識が必要な事、対象の生活の質の向上のためにも療養者自身の自己管理能力をつけることや家族のサポートが必要なことを講義する。さらに、保健・医療・福祉の連携による在宅療養者とその家族をサポートするシステムについて学習する。</p>	
	在宅看護方法論	<p>在宅療養生活に必要な日常生活援助に必要な看護技術の基本と、医療処置の多い事例への在宅支援のために必要な医療処置を安全に行う技術及び状況を判断する知識を再確認し、具体的な事例を通して生活の中で遭遇する看護問題について検討する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 地域 教育 実践 看護 学	ケアマネジメント論	<p>現在、高齢で慢性病をもちつつ在宅で生活する場合、医療サービスだけでなく各種の福祉サービス利用することが一般的になっている。ケアマネジメントは、介護保険の導入によって一般的になった用語で、利用者ニーズと社会資源をどう結びつけていくかの手法である。ケアマネジメントする人をケアマネージャーと称し、在宅でのサービス利用においては、複数のサービス提供機関との調整の役割を果たす。</p> <p>本科目では、ケアマネジメントの概念、過程、機能と役割、介護保険とケアプラン、ケアマネジメントの実際などの学習を通して、在宅での生活支援における調整及び連携に資することを目的とする。</p>	
	在宅看護学実習	<p>在宅療養という場面では、利用者本人の要因や住環境、生活背景などが、より複雑に絡み合うため、身体情報と生活環境情報をいかに連結させるかが重要な鍵を握る。その実際がどのように展開されているかについて実習を通して理解する。</p> <p>健康障害が、対象と家族に与える影響について、人々の健康状況を把握し、健康の保持・増進を図るための援助や援助システムについて理解する。在宅療養のための継続看護の重要性や課題を理解し、保健・医療・福祉の連携の必要性とその利用方法を理解する。</p>	
	地域看護概論	<p>地域看護の歴史的過程をふまえて、人々の生活の場において、暮らしと健康を守る活動の意味について理解させる。さらに、公衆衛生看護及び継続看護を含む地域保健活動の理念・目的、および保健師の役割と機能を教授する。</p> <p>特に、人々の健康並びに疾病の予防、発生・回復及び改善の過程を社会条件の中でとらえ、地域住民の主体性を尊重したセルフケア能力を高めるためのヘルスプロモーションの概念を考えて、地域保健活動の基本理念を教授する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	在宅地域看護学		
	地域看護方法論	<p>地域看護の対象は、ライフステージにおける地域で生活している人々であり、しかもあらゆる健康レベルにある人々である。そして、地域で生活している人々は、地域社会の中で家族集団、その中の個々人から成り立っていることから、個人・家族・地域(社会)集団について理解し、対象別の地域保健活動の実際と展開方法について学習する。</p> <p>対象別については、母子、成人、高齢者に対する保健活動について学ぶ。</p>	
	地域看護方法論	<p>地域看護方法論 に引き続き、精神保健活動、障害者保健活動、難病保健活動、歯科保健活動、健康危機管理、災害時の保健活動などについて学習する。精神保健、難病、感染症(結核を含む)災害等の理念と展開方法について学習する。特に、地域保健・医療・福祉施策に関連させながら、住民のセルフケア能力を高めるための活動理念を教授する。</p>	
	地域看護計画論	<p>地域の健康課題を解決するために策定される地域保健計画について、健康政策が重視される歴史的背景から学びを深め、計画の必要性、意義について理解する。健康な町づくりを目指して、地域住民の主体的な参画・関係機関との協働による総合的な保健計画策定の理論と基礎的な技術を習得する。保健計画におけるニーズ把握から評価までの一連の過程や住民の主体的な参画、関係機関との協働のあり方について学び、保健計画策定における看護職の役割を考える。</p>	
	地域看護展開論	<p>地域保健活動は、地域で生活する人々が主体性のある健康生活を送るために行動変容を支えるものである。個人・集団を対象に展開する保健活動の方法の基盤となる理論・技術を学び、住民が主体的に参画し、組織的な努力によって問題解決を図ることを支える活動の一連の課程を学ぶ。地域における個人・家族・集団への健康教育・保健指導の基本を理解し、演習を通して、展開方法を習得する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 地 域 教 育 科 目	在宅 学校保健論	健康な国民の育成をめざす学校保健は教育の基本となるので、学校教育においては重要な位置を占めている。そこで、学校保健の役割と内容を理解し、学校保健活動の展開に必要な知識、方法を学ぶ。また学校保健活動の実際について理解し、学校保健の現代的な課題についても解決の具体策を考察する。また、地域において学校保健が保健師活動と、どう連携しているかという視点から、理解を深める。	
	在宅 産業保健論	労働は、人間生活の基本的な要素である。しかしながら、自己の生活を維持し家族を養うための労働が、人の健康に重大な影響をもたらしてきたのも事実である。働く人々の健康状態は、労働環境や労働条件によって大きく左右される。そしてこれらの労働環境や条件は、その時代や国の科学技術の発展段階や社会経済制度等によって大きく異なる。そこで、産業保健論では、あらゆる労働者を対象に、労働環境や作業上の諸条件から発生しやすい疾病や障害を防止し、健康と福祉を維持増進するための、労働衛生とその管理、産業保健活動について学ぶ。	
	地域看護学実 践 看護学	障害を持ちながら、地域で生活する人々とその家族をとりまく環境・生活実態を理解し、その健康上の問題や生活課題を考える。さらに、保健・医療・福祉の総合的視点から、対象の生活の質の向上を目指した地域での保健師の役割を学ぶ。	
	地域看護学実 践 看護学	産業の場における保健・看護の実践活動を通して、既習の知識や技術を統合し、産業保健の特徴および保健師の役割を理解する。また、地域に住む人々の生活の実態から健康上の課題を明らかにし、住民主体で取り組む活動を支援する地域保健活動のプロセスを理解する。また、行政における地域保健活動の実習を通して、保健師に必要な知識・技術の基本的能力を習得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 実 践 教 育 看 護 目 学	看護倫理学	<p>看護における倫理問題を考察し、ナーシング・アドボカシー（患者の利益と権利の擁護）の理念をもって、倫理的に妥当な行為を選択し、実施していく能力を身に付ける。とりわけ、ジレンマに陥る場面で倫理的に問題を解決していく力を獲得することを目的とする。その為の基盤として、看護（看護研究を含む）における主な倫理問題を生命倫理の視点から包括的に論じる。さらに事例分析を通して問題解決能力を身に付ける。</p>	
	看護マネジメント論	<p>看護管理の基本的な理念や概念を講義する。保健医療の動向や看護を取り巻く社会経済環境、看護業務改善の動向、看護制度に関する変化等を含め、看護管理の視点から将来的に重要な課題について述べる。さらに、看護管理者及びスタッフの役割について学び、患者にとっての良い医療環境について考える。また、看護教育の変遷を踏まえ、各看護職種に関する看護教育の目的・目標を明確にし、看護教育の方法や課題について、講義及び演習を通して理解を深める。</p> <p>授業方法は講義形式で進めるが、学生に課題を与え、演習・発表の機会の場とする。</p>	
	リスクマネジメント論	<p>最近の医療施設等における感染管理、事故防止対策として強化されているリスクマネジメントについて、実際例などを参考にして理解を深める。また、それらに伴う医療過誤や訴訟について基本的な知識を学ぶ。</p>	
	災害・国際看護論	<p>国内外の災害の事例を踏まえ、災害の概念や災害時の健康障害、災害時に必要な看護を提供するための負傷者への応急的な対応システム、被災者への継続的な支援活動を維持するためのシステムなどを学び、災害救護活動や国際看護活動への理解を深める。</p> <p>諸外国、ことに国際保健の対象となる開発途上国の保健医療の課題に着目し、国際医療協力・国際保健支援の意義と現状を、功罪の両面から理解し、国際社会の一員としての日本の役割と将来展望を検証する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 実 践 育 科 目	臨床技術実践論	あらゆる年齢、健康状態の人々の看護を実践するために必要な知識・技術・態度を学ぶ。臨床で必要とされる看護技術の中で、侵襲的な技術について、これまでの学習を統合しながら、対象者に安全で安楽に実施できる力を養う。学習方法は、学生が主体的に問題解決できるようチュートリアル学習を導入していく。	
	研究方法論基礎	看護専門職として、将来、看護学の発展に寄与できるよう、自らが疑問を持ち、科学的に解明できる能力を養うための基礎的な研究方法論を学ぶ科目である。看護学における研究の意義や、研究疑問にあった研究方法、研究計画書について教授する。	
	研究方法論応用	研究方法論基礎で学んだ研究についての知識と手法を用いて自らの疑問や関心を解決する。種々の日常場面での素朴な疑問を研究課題にまで高め、その課題に最適な研究手法を選択し、研究計画書を作成しそれを実施する。得られたデータから言えることを結果にまとめる。	
	チーム医療論	<p>保健・医療・福祉等の専門職には、「連携と協働によるアプローチ」が近年ますます強く求められるようになってきている。それは、同職種によるアプローチのみならず、多機関多職種による連携と協働によるアプローチを意味するものである。</p> <p>本科目では、チームアプローチ(チーム医療)に必要な「集団力学(グループダイナミクス)」に関する基礎知識とチーム(グループ)の形成と活用、さらには実践的なチームアプローチのためのケースカンファレンスの方法について学ぶ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 実 践 育 看 護 目 学	コーチング論	<p> コーチングとは、人材開発のための技法のひとつである。コーチングでは、モチベーションを重視し、人が自ら学習し育つような環境を作り出し、個人をのばし、自ら問題を解決していけるようになることを目的としている。認めること、共感などの心理的なテクニックを用いながら、コミュニケーションをとり、モチベーションを高め、能力を伸ばし、スキルを身につけさせていくのがコーチングの技術となる。したがって、保健指導時の自発的行動変容のスキルとして、またカウンセリングの1スキルとしてコーチングは大変有効である。 </p> <p> 本講義ではそうしたスキルの習得に加えて、学生自身のセルフコーチングが行われ自己認識力、ストレス共生、気分創出力、自己表現力、アサーション、対人関係力、対人受容力、共感力などが高まることを目的としている。 </p>	
	総合看護学実習	<p> 学生自らの課題に基づき、主体的・自律的に実習を計画・実施・評価する体験によって、看護専門職としての判断能力と思考過程を深め、必要な知識・技術・態度等の学習内容を統合するとともに看護観を養うことを目的とする。 </p> <p> そのために、これまでの縦断的領域別学習をしてきた全学生が、多機能総合病院で、全領域を対象として横断的・広域的に実習することで、より確実な総合的看護を学修する。 </p>	